

令和8年度(2026)
年間授業計画

第一学年



| 教科 | 科目 |
|------|--------------|
| 国語 | 現代の国語 |
| | 言語文化 |
| 地理歴史 | 地理総合 |
| | 歴史総合 |
| 数学 | 数学Ⅰ |
| | 数学A |
| 理科 | 物理基礎 |
| | 化学基礎 |
| | 地学基礎 |
| 保健体育 | 体育（女子） |
| | 体育（男子） |
| | 保健 |
| 芸術 | 音楽Ⅰ |
| | 美術Ⅰ |
| | 書道Ⅰ |
| 外国語 | 英語コミュニケーションⅠ |
| | 論理表現Ⅰ |
| 情報 | 情報Ⅰ |
| 総合 | 総合的な探究の時間 |

令和8年度 年間授業計画

東京都立両国高等学校

| | | | | |
|-------|--|-----|-------|------|
| 教科・科目 | 国語・現代の国語 | 2単位 | 対象学年 | 高校1年 |
| 教科書 | ちくま現代の国語（筑摩書房） | | 教科担当者 | |
| 副教材 | <ul style="list-style-type: none"> ・新訂版常用国語便覧（浜島書店） ・読解評論文キーワード改訂版（筑摩書房） ・上級入試漢字・語彙（桐原書店） ・プログレス現代文（いいずな書店）、 ・現代文速読トレーニングⅠ冊子版(数研出版) | | | |

| | | | |
|-----|-------------------------------------|---|--|
| 目 標 | 【A：知識及び技能】 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける | 【B：思考力、判断力、表現力等】 論理的に考える力、深く共感する力、豊かに想像する力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。 | 【C：学びに向かう力、人間性等】 文章の読解を通じて自己を向上させ、言葉の価値を認識し、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 |
| | | | |

| 学期 | 単元 | 時間 | 指導内容・留意点等 | 評価基準 | | | 評価方法 |
|-----|--|----|--|------|---|---|---|
| | | | | A | B | C | |
| 一学期 | 第1章 問うこと、語ること 第2章 ことばは世界をつくる 第3章 主張を読み取る 第4章 自分のことばで伝える | 26 | <ul style="list-style-type: none"> ・文章における論理について理解する。 ・文章の構成・展開を理解し、他者の考えを理解する。 ・筆者の論理的な思考方法を学び、自らの思考を論理的に表現する。 ・思考と認識について理解し、言葉が持つ価値への理解を深める。 | ○ | ○ | ○ | 定期考査 小テスト 授業への取り組み 課題レポート グループ発表 創作作品 など |
| | 第5章 話し合いから議論へ 第6章 前提を疑う 第7章 伝えること、受け止めること 第8章 深層を探ることば | 30 | <ul style="list-style-type: none"> ・文章における論理について理解する。 ・文章の構成・展開を理解し、他者の考えを理解する。 ・筆者の論理的な思考方法を学び、自らの思考を論理的に表現する。 ・資料を正しく読み取り、文章との関係を理解する。 ・現代的な視点で物事を捉え直す思考や視野を広げる。 ・現代の経済、文化などの問題点を理解し、現代社会への興味を高め、その解決策を考え表現する。 ・複数の文章を比較し、共通点や相違点をとらえる。 | ○ | ○ | ○ | 定期考査 小テスト 授業への取り組み 課題レポート グループ発表 創作作品 など |
| 三学期 | 第9章 情報と社会 第10章 主張を論理的に伝える | 14 | <ul style="list-style-type: none"> ・文章における論理について理解する。 ・文章の構成・展開を理解し、他者の考えを理解する。 ・現代的な視点で物事を捉え直す思考や視野を広げる。 ・言語に関する文章を読み、言葉による見方・考え方を働かす。 ・抽象的な題材に対する正しい理解で自己の思考を深める。 ・読解演習を通して、読解力を高める。 | ○ | ○ | ○ | 定期考査 小テスト 授業への取り組み 課題レポート グループ発表 創作作品 など |
| | | 合計 | 70 | | | | |

令和8年度 年間授業計画

東京都立両国高等学校

| | | | | |
|-------|--|-----|-------|------|
| 教科・科目 | 国語・言語文化 | 3単位 | 対象学年 | 高校1年 |
| 教科書 | 言語文化（筑摩書房） | | 教科担当者 | |
| 副教材 | 「常用国語便覧（浜島書店）」「必修古典文法 三訂版（文英堂）」「新明解漢文（尚文出版）」「つながる・まとまる古文単語500プラス（いづな書店）」「プログレス古典実践演習（いづな書店）」「古典文法マスタートドリル（数研出版）」 | | | |

| | | | |
|----|--|--|---|
| 目標 | 【A：知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。 | 【B：思考力、判断力、表現力等】 深く共感する力や豊かに想像する力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。 | 【C：学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 |
|----|--|--|---|

| 学期 | 単元 | 時間 | 指導内容・留意点等 | 評価基準 | | | 評価方法 |
|-----|---|-----|---|------|---|---|---|
| | | | | A | B | C | |
| 一学期 | 「十訓抄」大納言頼雅卿 大江山 「竹取物語」かぐや姫の昇天 「伊勢物語」東下り 梓弓 「土佐日記」門出 帰京 「更科日記」東路の道の果て 「守株」 「推敲」 「虎の威を借る」 「漁夫の利」 「塞翁が馬」 | 39 | <ul style="list-style-type: none"> 言葉が持っている価値について理解を深める。 歴史的仮名遣いの読み方や辞書の使い方を理解する。 文中の省略語を補って現代語訳する。 用言の活用の種類と活用形を理解する。 助動詞について理解する。 説話・歌物語の特色についての理解を深める。 物語に描かれた人々の生活やものの見方を理解する。 日本語と漢文の構造の違いを理解する。 返り点の種類とそれに従った読み方を理解する。 書き下し文のきまりを理解する。 再読文字や返読文字について理解する。 小説の場面設定や登場人物の心情の変化について理解する。 | ○ | ○ | ○ | 定期考査 小テスト 授業への取り組み 課題レポート グループ発表 創作作品 など |
| 二学期 | 「枕草子」春はあけぼの ありがたきもの 雪のいと高う降りたるを 「徒然草」つれづれなるままに 丹波に出雲といふ所あり ある人弓射ることを習ふに 花は盛りに 「方丈記」ゆく河の流れ 「管鮑の交わり」 「刺客荊軻」 「死諸葛走生仲達」 「登黄鶴楼」「鹿柴」「秋風引」「江雪」 | 45 | <ul style="list-style-type: none"> 助動詞について理解を深める。 随筆の内容を把握し、作者の心情を理解する。 随筆の特色を理解し、現代の随筆と読み比べ、その共通性や相違性について理解を深める。 兼好法師、鴨長明の文章を読み、そこに表れた我が国独自の世界観を味わう。 表現に即して作者の心情を理解する。 幅広く和歌を読み比べ、言語文化としての短歌への理解を深める。 唐詩の種類・修辞や、その役割を理解する。 さまざまな詩人についての理解を深める。 俳句についての理解を深め、自分自身で表現する。 | ○ | ○ | ○ | 定期考査 小テスト 授業への取り組み 課題レポート グループ発表 創作作品 など |
| 三学期 | 「平家物語」木曾の最期 「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」 「論語」 「老子」 | 21 | <ul style="list-style-type: none"> 敬語の用法について理解する。 軍記の背景や内容を理解し、作者の心情を理解する。 武人の生活やものの見方、感じ方を理解する。 中古と中世の文学を読み比べ、その共通性や相違性について理解を深める。 和歌独特の表現や修辞を理解し、和歌の世界を味わう。 | ○ | ○ | ○ | 定期考査 小テスト 授業への取り組み 課題レポート グループ発表 創作作品 など |
| | | 合計 | <ul style="list-style-type: none"> 音便や対句表現について理解する。 作品の時間・空間の特徴から、登場人物の心情を理解する。 | | | | |
| | | 105 | | | | | |

| | | | | |
|-------|-----------------------------------|-----|-------|------|
| 教科・科目 | 地理歴史・地理総合 | 2単位 | 対象学年 | 高校1年 |
| 教科書 | 『高等学校 新地理総合』帝国書院 『詳解現代地図』山川出版社 | | 教科担当者 | |
| 副教材 | 『最新地理図表GEO2026』第一学習社 | | | |

| | | | |
|----|--|--|--|
| 目標 | 【A：知識及び技能】 知識：地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災・地域や地球的課題への取組などを理解する。 技能：地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 | 【B：思考力、判断力、表現力等】 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 | 【C：学びに向かう力、人間性等】 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深める。 |
|----|--|--|--|

| 学期 | 単元 | 時間 | 指導内容・留意点等 | 評価基準 | | | 評価方法 |
|-----|---|------------------------|---|------|---|---|--|
| | | | | A | B | C | |
| 一学期 | 第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム 1節 地球上の位置と時差 2節 地図の役割と種類 第2章 結び付きを深める現代世界 1節 現代世界の国家と領域 2節 グローバル化する世界 | 26 | ・地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解する。 ・学習者用端末を活用して地図や地理情報システムなどを用い、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。 ・地図や地理情報システムについて、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・地図や地理情報システムを用いて地域調査を行い、主体的に追究、解決する。 ・方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解する。 ・世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現する。 | ○ | ○ | ○ | ワークシート、単元見通しシート、定期考査、小テスト、課題レポート、グループ発表 など |
| | 第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 1節 世界の地形と人々の暮らし 2節 世界の気候と人々の生活 3節 世界の言語・宗教と人々の生活 4節 歴史的背景と人々の生活 5節 世界の産業と人々の生活 第2章 地球的課題と国際協力 1節 複雑に絡み合う地球的課題 2節 地球環境問題 3節 資源・エネルギー問題 4節 人口問題 5節 食糧問題 6節 都市・居住問題 | 30 | ・地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。 ・自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解する。 ・世界の人々の生活文化について主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解する。 ・地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指す各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解する。 ・地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。 | ○ | ○ | ○ | ワークシート、単元見通しシート、定期考査、小テスト、課題レポート、グループ発表 など |
| 三学期 | 第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境 2節 地震・津波と防災 3節 火山災害と防災 4節 気象災害と防災 5節 自然災害への備え 第2章 生活圏の調査と地域の展望 1節 生活圏の調査と地域の展望 | 14 合計 70 | ・自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。 ・さまざまな自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的スキルを身に付ける。 ・地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。 ・自然災害への備えを生活圏の調査と地域の展望に関連させ、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究し、解決しようとする態度を養う。 | ○ | ○ | ○ | ワークシート、単元見通しシート、定期考査、小テスト、課題レポート、グループ発表 など |

令和8年度 年間授業計画

東京都立両国高等学校

| | | | | |
|-------|--|-----|-------|------|
| 教科・科目 | 地理歴史・歴史総合 | 2単位 | 対象学年 | 高校1年 |
| 教科書 | 山川出版社『歴史総合 近代から現代へ』 | | 教科担当者 | |
| 副教材 | 「歴史総合 近代から現代へ ノート」 「最新世界史図説 タペストリー」 | | | |

| | | | |
|-----|---|---|---|
| 目 標 | 【A：知識及び技能】 | 【B：思考力、判断力、表現力等】 | 【C：学びに向かう力、人間性等】 |
| | 知識：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 | 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 | 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 |
| | 技能：諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 | | |

| 学期 | 単元 | 時間 | 指導内容・留意点等 | 評価基準 | | | 評価方法 |
|-----|---|----|--|------|---|---|--|
| | | | | A | B | C | |
| 一学期 | 第1部 近代化と私たち 1 結びつく世界 2 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 3 明治維新と日本の立憲体制 4 帝国主義の展開とアジア | 26 | 大航海時代以前、アジアでは大帝国が繁栄し、ヨーロッパよりも経済・文化が発展していたが、大航海時代以降に始まる世界の一体化の中で、大変化を遂げたヨーロッパに立場を逆転される。その大逆転の理由を理解させる。 その後ヨーロッパが中核として周辺諸国となったアジア・アフリカを植民地化する帝国時代となるが、その中で、アジアで唯一ヨーロッパに起きた大変化を自ら学び実現させた我が国日本について学ぶ。 | ○ | ○ | ○ | 定期考査、小テスト、歴史総合マイノート、課題レポート、ペアワーク、グループ発表 など |
| 二学期 | 第2部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 5 第一次世界大戦と大衆社会 6 経済危機と第二次世界大戦 7 戦後の国際秩序と日本の改革 | 30 | 第一次世界大戦と第二次世界大戦の帝国主義戦争としての側面を基軸にしつつ、それぞれの世界大戦が世界と日本にもたらした変化について学ぶ。 また第二次世界大戦をめぐる国際的な利害関係の変遷と、戦後の冷戦の成立について理解させる。 帝国主義から冷戦期の日本の発展と限界、第二次世界大戦後の変容について学ぶ。 | ○ | ○ | ○ | 定期考査、小テスト、歴史総合マイノート、課題レポート、ペアワーク、グループ発表 など |
| 三学期 | 第3部 グローバル化と私達 8 冷戦と世界経済 9 グローバル化する世界 10 現代の課題 | 14 | 冷戦の変遷と崩壊、冷戦の中で高度経済成長を遂げた戦後の日本について学ぶ。 また冷戦の終結によって起きた世界の変化とグローバル化、それによって現在生じている世界と日本の課題について理解させる。 | ○ | ○ | ○ | 定期考査、小テスト、歴史総合マイノート、課題レポート、ペアワーク、グループ発表 など |
| | | 合計 | | | | | |

令和8年度 年間授業計画

東京都立両国高等学校

| | | | | |
|-------|--|-----|-------|------|
| 教科・科目 | 数学・数学 I | 3単位 | 対象学年 | 高校1年 |
| 教科書 | 数学 I | | 教科担当者 | |
| 副教材 | 体系数学 3 数式関数編・体系数学 4 体系問題集数学 3 数式関数編・体系問題集数学 4 チャート式基礎からの数学 I + A, II + B | | | |

| | | | |
|----|--|--|--|
| 目標 | 【A：知識及び技能】 各単元における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身につける。また、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につける。 | 【B：思考力、判断力、表現力等】 各単元において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の課程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につける。 | 【C：学びに向かう力、人間性等】 各単元における考え方に興味をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断できるようにする。 |
| | | | |

| 学期 | 単元 | 時間 | 指導内容・留意点等 | 評価基準 | | | 評価方法 |
|-----|--|----|--|------|---|---|--|
| | | | | A | B | C | |
| 一学期 | ・図形と計量（三角比） 数学 I の発展的な内容 ・複素数と方程式 ・図形と式 | 35 | ・三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。 ・図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決したりする力を培う。 ・数学 I で学習した内容を発展させ、方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。 ・数学 I で学習した内容を発展させ、図形を、与えられた条件を満たす点の集合として認識するとともに、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 | ○ | ○ | ○ | 授業 定期考査 宿題テスト 小テスト 課題レポート等 |
| 二学期 | 数学 I の発展的な内容 ・図形と式 ・三角関数 | 43 | ・数学 I で学習した内容を発展させ、図形を、与えられた条件を満たす点の集合として認識するとともに、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・数学 I で学習した内容を発展させ、角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。 ・第4章で学習した内容を発展させ、三角関数の加法定理を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 | ○ | ○ | ○ | 授業 定期考査 宿題テスト 小テスト 課題レポート等 |
| 三学期 | 数学 I の発展的な内容 第1章 指数関数と対数関数 | 27 | ・指数関数と対数関数について理解し、関数についての理解を深める。 ・指数や対数の応用力を育てる。 | ○ | ○ | ○ | 授業 定期考査 宿題テスト 小テスト 課題レポート等 |
| | | 合計 | 105 | | | | |

令和8年度 年間授業計画

東京都立両国高等学校

| | | | | |
|-------|--|-----|------|------|
| 教科・科目 | 数学・数学A | 2単位 | 対象学年 | 高校1年 |
| 教科書 | 数学A 教科担当者 | | | |
| 副教材 | 体系数学3 論理・確率編 体系問題集数学3 論理・確率編 チャート式基礎からの数学Ⅰ+A,Ⅱ+B | | | |

| | | | |
|----|--|--|--|
| 目標 | 【A：知識及び技能】 各単元における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身につける。また、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につける。 | 【B：思考力、判断力、表現力等】 各単元において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の課程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につける。 | 【C：学びに向かう力、人間性等】 各単元における考え方に興味をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断できるようにする。 |
| | | | |

| 学期 | 単元 | 時間 | 指導内容・留意点等 | 評価基準 | | | 評価方法 |
|-----|--|----------|--|------|---|---|----------------------|
| | | | | A | B | C | |
| 一学期 | <ul style="list-style-type: none"> 集合と命題 場合の数と確率 発展的な学習 <ul style="list-style-type: none"> 二項定理 | 25 | <ul style="list-style-type: none"> 集合の要素の個数を数える工夫を学習する。 場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 組合せの考え方を式の展開に活用できるようにする。 | ○ | ○ | ○ | 授業 定期考査 課題レポート |
| 二学期 | 発展的な学習 <ul style="list-style-type: none"> データの分析 式と証明 ・数学と人間の活動 | 30 | <ul style="list-style-type: none"> データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりする力を養う。 確率をデータの分析に活用できるようにする。 数学Ⅰや数学Aで学習した内容を発展させ、数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。 様々な人間の活動の中から、整数を中心とした数学的な要素を見出し、数学の内容の理解を深めると同時に、現実の事象を数学を用いて考察できるような力を培う。 | ○ | ○ | ○ | 授業 定期考査 課題レポート |
| 三学期 | ・数学と人間の活動 | 15 | ・様々な人間の活動の中から、整数を中心とした数学的な要素を見出し、数学の内容の理解を深めると同時に、現実の事象を数学を用いて考察できるような力を培う。 | ○ | ○ | ○ | 授業 定期考査 課題レポート |
| | | 合計 70 | | | | | |

令和8年度 年間授業計画

東京都立両国高等学校

| | | | | |
|-------|------------------|-----|-------|------|
| 教科・科目 | 理科・物理基礎 | 2単位 | 対象学年 | 高校1年 |
| 教科書 | 物理基礎 (数研出版) | | 教科担当者 | |
| 副教材 | リードα 物理基礎 (数研出版) | | | |

| | | | |
|----|---|---|--|
| 目標 | 【A：知識及び技能】 知識の習得や知識の概念的な理解，実験操作の基本的な技術の習得ができていますか。 | 【B：思考力、判断力、表現力等】 習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。 | 【C：学びに向かう力、人間性等】 知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において，粘り強く学習に取り組んでいるか，自ら学習を調整しようとしているか。 |
|----|---|---|--|

| 学期 | 単元 | 時間 | 指導内容・留意点等 | 評価基準 | | | 評価方法 |
|-----|---|----|--|------|---|---|---|
| | | | | A | B | C | |
| 一学期 | 第1章 運動の表し方 1. 速度 2. 加速度 3. 落体の運動 第2章 運動の法則 1. 力とそのはたらき 2. 力のつりあい 3. 運動の法則 4. 摩擦を受ける運動 5. 液体や気体から受ける力 | 11 | ・物体の運動を表すには向きが必要であること，および速さと速度の違いを理解させる。 ・直線上の合成速度，相対速度の意味と求め方を理解している。 | ○ | | | 定期考査、 実験レポート 課題レポート、 小テスト グループ発表 など |
| | | | ・動く観測者から見た場合の，観測者と同一直線上を動く物体の運動のようすを説明できる。 | | ○ | | |
| | | | ・力がベクトル量であることを認識し，力の合成や分解ができる。 ・注目する物体にはたらく力が指摘でき，つりあいの式が立てられる。 ・作用・反作用の2力とつりあいの2力を区別して考えることができる。 | ○ | | | |
| | | | ・摩擦力がなくなると比較するなどして，どのようなときに静止摩擦力や動摩擦力が現れるか，またそのときの物体の運動について，興味・関心をもち考えようとしている。 ・ノートの作成、発表時の工夫に主体的に取り組ませる。 | | | ○ | |
| 二学期 | 第3章 仕事と力学的エネルギー 1. 仕事 2. 運動エネルギー 3. 位置エネルギー 4. 力学的エネルギーの保存 第3編 波 第1章 波の性質 1. 波と媒質の運動 2. 重ねあわせの原理 第2章 音 1. 音の性質 2. 発音体の振動と共振・共鳴 | 15 | ・仕事の定義を正確に把握させる。特に，物体の移動方向に垂直にはたらく力は仕事をしないこと，移動の向きと力の向きが逆のときは仕事は負になること，および，正・負の仕事の意味について具体的に理解させる。F-x図の面積が仕事の大きさを表すことを理解させる。 | ○ | | | 定期考査、 実験レポート 課題レポート、 小テスト グループ発表 など |
| | | | ・物体に保存力以外の力のはたらくとき，その仕事の量だけ物体の力学的エネルギーは変化することを理解し，物体の運動を考察することができる。 | | ○ | | |
| | | | ・力学的エネルギー保存則について興味関心をもち，理解しようとしている。 | | | ○ | |
| | | | ・波の原理、基本概念を理解させ、音波の共鳴現象について説明させ、実験データの解析を行い発表させる。 | ○ | ○ | ○ | |
| 三学期 | 第4編 電気 第1章 物質と電気抵抗 1. 電気の性質 2. 電流と電気抵抗 3. 電気とエネルギー 4. 電流と磁場 5. 交流と電磁波 6. エネルギーの利用 | 14 | ・電流と電圧の基礎について理解させる。 ・オームの法則，抵抗の接続，抵抗率の基礎について理解させる。 | ○ | | ○ | 定期考査、 実験レポート 課題レポート、 小テスト グループ発表 など |
| | | 合計 | ・電流と磁場の関係について説明できる。 ・モーターの回る原理について説明できる。 ・身近な電磁誘導の利用例について，説明できる。 | | ○ | | |
| | | 40 | ・直流と交流の違いや送電時の工夫について，主体的に考えることができる。 | | | ○ | |
| | | | | | | | |

| | | | | |
|-------|---|-----|------|------|
| 教科・科目 | 理科・化学基礎 | 2単位 | 対象学年 | 高校1年 |
| 教科書 | 第一学習社『化学基礎』 教科担当者 | | | |
| 副教材 | 第一学習社『2026【化学708】学習応援バック 化学+セミナー化学基礎+化学 Libry版』 実教出版『サイエンスビュー化学総合資料新訂版 Lentrance版』 | | | |

| | | | |
|----|---|--|--|
| 目標 | <p>【A：知識及び技能】 自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。</p> | <p>【B：思考力、判断力、表現力等】 自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。</p> | <p>【C：学びに向う力、人間性等】 自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p> |
|----|---|--|--|

| 学期 | 単元 | 時間 | 指導内容・留意点等 | 評価基準 | | | 評価方法 |
|-----|---|----|---|------|---|---|--|
| | | | | A | B | C | |
| 一学期 | 第2節 酸と塩基の反応 ① 酸と塩基 ② 水素イオン濃度 ③ 中和と塩 ④ 中和滴定 | 11 | <ul style="list-style-type: none"> 酸と塩基の定義や分類を理解し、酸と塩基を価数や強弱にもとづいて分類する。 水溶液の性質(酸性・中性・塩基性)と水素イオン濃度やpHとの関係を理解し、知識を身に付けている。 酸や塩基に関する実験などを行い、酸と塩基の性質および中和反応に関与する物質の量的関係について理解する。 | ○ | ○ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ノート提出 実験レポート 小テスト 定期考査 グループ発表 など |
| | 第3節 酸化還元反応 ① 酸化と還元 ② 酸化剤と還元剤の反応 ③ 酸化還元の量的関係 ④ 金属のイオン化傾向 ⑤ 電池 ⑥ 金属の製錬 | 15 | <ul style="list-style-type: none"> 酸化還元反応が電子の授受によることを理解する。 酸化剤、還元剤のはたらきを理解し、半反応式をもとに酸化還元反応を組み立てる。 酸化還元反応の量的関係を理解している。 金属のイオン化傾向や金属の反応性を理解し、知識を身に付けている。 | ○ | ○ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ノート提出 実験レポート 小テスト 定期考査 グループ発表 など |
| 二学期 | 序章 化学と人間生活 第2節 原子の構造と元素の周期表 ① 原子の構造 ② イオン ③ 元素の相互関係 第3節 化学結合 ① イオン結合 ② 共有結合 ③ 金属結合 ④ 結晶の比較 ⑤ 結晶と単位格子 | 15 | <ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会を支える身近な物質に注目し、これらの物質の性質を調べる活動を通して、物質を対象とする学問である化学の特徴について理解する。 科目の導入として、化学への興味・関心を高める。 原子の構造および陽子、中性子、電子の性質を理解する。 元素の周期律および原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解する。 イオン結合がイオン間の静電的な引力による結合であることや、イオン結合でできた物質の性質を理解する。 共有結合を電子配置と関連付けて理解する。 共有結合でできた物質の性質を理解する。 金属結合は自由電子が介在した結合であることを理解する。 金属結合でできた物質の性質を理解する。 | ○ | ○ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ノート提出 実験レポート 小テスト 定期考査 グループ発表 など |
| | 第1章 物質の構成 第1節 物質の成分と構成元素 ① 物質の成分 ② 物質の構成元素 ③ 状態変化と熱運動 第2章 物質の変化 第1節 物質質量と化学反応式 ① 質量・分子質量と式量 ② 質量 ③ 溶解と濃度 ④ 化学変化と化学反応式 ⑤ 化学反応の量的関係 ⑥ 化学変化における諸法則 | 15 | <ul style="list-style-type: none"> 身近な物質を取り上げ、混合物から純物質を分離したり精製したりする実験などを行い、実験における基本操作と科学的に探究する方法を身に付ける。 身近な物質を取り上げ、元素を確認する実験などを行い、単体や化合物について理解する。 粒子の熱運動と粒子間に働く力との関係により、物質の状態変化が起こることを理解する。 粒子の数にもとづく量の表し方である物質質量の概念を導入し、物質質量と質量、物質質量と気体の体積との関係について理解する。 化学変化と物理変化の違いを理解し、化学反応を化学反応式を用いて表す。 化学変化では、一定の量的関係が成り立つことを理解し、化学反応式をもとに物質の量的関係を見出す。 | ○ | ○ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ノート提出 実験レポート 小テスト 定期考査 グループ発表 など |
| 三学期 | 終章 化学が拓く世界 ・水道水について考えよう ・食品の保存について考えよう ・洗剤について考えよう ・リサイクルについて考えよう | 14 | <ul style="list-style-type: none"> 「化学基礎」で学んだ事柄が、日常生活や社会を支えている科学技術と結びついていることを理解する。 | ○ | ○ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ノート提出 実験レポート 小テスト 定期考査 グループ発表 など |
| | | 合計 | | ○ | ○ | ○ | |
| | | 70 | | ○ | ○ | ○ | |

令和8年度 年間授業計画

東京都立両国高等学校

| | | | | |
|-------|----------------------|-----|-------|------|
| 教科・科目 | 理科・地学基礎 | 2単位 | 対象学年 | 高校1年 |
| 教科書 | 啓林館「高等学校 地学基礎 改訂版」 | | 教科担当者 | |
| 副教材 | 浜島書店「三訂版ニューステージ地学図表」 | | | |

| | | | |
|-----|--|--|---|
| 目 標 | 【A：知識及び技能】 観察、実験などを行い、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方につながる知識と技能を養う。 | 【B：思考力、判断力、表現力等】 科学の方法に従った観察、実験などを行い、それらの報告書や発表を通じて地学的に探究する能力を養う。 | 【C：学びに向かう力、人間性等】 日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって学習活動を行わせ、地学的に探究する態度を育てる。 |
|-----|--|--|---|

| 学 期 | 単 元 | 時 間 | 指導内容・留意点等 | 評価基準 | | | 評価方法 |
|-------|---|-----|--|------|---|---|--|
| | | | | A | B | C | |
| 一 学 期 | 地球の構造 地球の概観 地球内部の構造 地震波 活動する地球 プレートテクトニクスと地球の活動 地震 火山活動 火成岩の形成 | 26 | 地球の形状 (1) 重力と地球楕円体についても、科学史の観点から扱い、物理的なセンスを身につけさせる。 地震波を用いた地球内部構造 (1) 波動の物理にも触れて、「見えない内部を観る」考え方を理解させる。 (2) 地震波の解析を実習して、地震動の性質を理解させる。 プレートテクトニクス (1) 日本列島を中心にプレートと地学現象の関係を理解させる。 火成岩 (1) 鉱物と 火成岩 の分類について科学的な分類と地球の構成物質について理解させる。 | ○ | ○ | ○ | ・評価Aは、主に定期考査や小テストと実験・観察実習で総合的に評価する。 ・Bは、主に定期考査の論述と実習報告書、課題等の内容で評価する。 ・Cは、講義や実習の取り組みやその成果物から総合的に評価する。 |
| 二 学 期 | 移り変わる地球 宇宙の誕生 地球の誕生 太陽系の誕生 地球と生命の進化 (自然との共生) 地球史の読み方 大気と海洋 大気の構造 | 30 | (1) ビッグバンからの宇宙の形成 (2) 宇宙の広がりとその観測の視点から扱う。 (3) 太陽-地球系の環境についても扱う。 地球環境の変遷と生物進化 (1) 誕生地球創生期から現在の環境までの地学的な時空間スケールで学ぶ。 堆積岩・変成岩 (1) 地質構造と地史の組み立てを学ぶ。プレート運動との関連で変成作用にも触れる。 大気の構造と熱収支 (1) 大気・海洋のエネルギー循環を理解させる。 | ○ | ○ | ○ | ・評価Aは、主に定期考査や小テストと実験・観察実習で総合的に評価する。 ・Bは、主に定期考査の論述と実習報告書、課題等の内容で評価する。 ・Cは、講義や実習の取り組みやその成果物から総合的に評価する。 |
| 三 学 期 | 太陽放射と大気・海水の運動 日本で見られる季節の気象 (自然との共生) | 14 | (1) 大気大循環(ハドレー型・ロスビー型)についても、日本の気候や異常気象を理解するために扱う。 | | | | ・評価Aは、主に定期考査や小テストと実験・観察実習で総合的に評価する。 ・Bは、主に定期考査の論述と実習報告書、課題等の内容で評価する。 ・Cは、講義や実習の取り組みやその成果物から総合的に評価する。 |
| | 自然との共生 地球環境と人類 災害と社会 | 合計 | (1) 各単元で触れた内容を振り返り、自然の恵みと災害が人間社会との密接な関係であることを確認し、自分の考えや意見を表現する。 | ○ | ○ | ○ | |
| | | 70 | | | | | |

令和8年度 年間授業計画

東京都立両国高等学校

| | | | | |
|-------|---------------|-----|-------|------|
| 教科・科目 | 保健体育・体育(女子) | 2単位 | 対象学年 | 高校1年 |
| 教科書 | 大修館 「新高等保健体育」 | | 教科担当者 | |
| 副教材 | なし | | | |

| | | | |
|----|--|---|--|
| 目標 | <p>【A：知識及び技能】</p> <p>実践種目の技能向上、実技種目のタイム向上を目指し、体力の向上を身に付ける。各種目の運動特性を理解し、知識を身に付ける。</p> | <p>【B：思考力、判断力、表現力等】</p> <p>自己の能力に適した運動の課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫させる。</p> | <p>【C：学びに向かう力、人間性等】</p> <p>自ら進んで運動を実施し、運動の楽しさや喜びを体得させる。生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる。</p> |
|----|--|---|--|

| 学期 | 単元 | 時間 | 指導内容・留意点等 | 評価基準 | | | 評価方法 |
|-----|---------------------------------|----|--|------|---|---|--|
| | | | | A | B | C | |
| 一学期 | A バレーボール | 26 | <p>◎バレーボール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パス、レシーブ、スパイク、ブロック ・簡易ゲーム <p>◎陸上競技、体づくり運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短距離走 ・投てき種目 ・体力向上のための運動 <p>◎水泳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ <p>◎社会の変化とスポーツ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会におけるスポーツの意義や必要性 | ○ | ○ | ○ | <p>実技到達度テスト</p> <p>タイム測定</p> <p>課題レポート</p> <p>実技種目への振り返り</p> <p>実技種目への自主的な取り組み</p> <p>課題解決への態度</p> <p>出席状況など</p> |
| | B 陸上競技 体づくり運動 (新体力テスト) | | | | | | |
| 二学期 | A 水泳 | 30 | <p>◎水泳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ <p>◎バスケットボール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パス、キャッチ ・セットショット ・ドリブルシュート ・対人防御 ・簡易ゲーム <p>◎ソフトボール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャッチボール ・バッティング ・バッティング ・守備練習 ・連係プレー ・ゲーム <p>◎社会の変化とスポーツ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意義、技術・戦術及び規則の理解 ・状況に応じたスポーツとの関わり方 | ○ | ○ | ○ | <p>実技到達度テスト</p> <p>課題レポート</p> <p>実技種目の振り返り</p> <p>実技種目への自主的な取り組み</p> <p>問題解決への態度</p> <p>出席状況など</p> |
| | B 水泳 バスケットボール ソフトボール | | | | | | |
| 三学期 | A 長距離走 | 14 | <p>◎長距離走</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイム走 ・距離走 <p>◎球技選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提示した球技(バレーボール、サッカー等の中から選択) <p>◎社会の変化とスポーツ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かなスポーツライフの設計と実践 | ○ | ○ | ○ | <p>タイム測定</p> <p>実技到達度テスト</p> <p>課題レポート</p> <p>実技種目の振り返り</p> <p>実技種目への自主的な取り組み</p> <p>問題解決への態度</p> <p>出席状況など</p> |
| | 球技選択 | 合計 | | | | | |
| | 体育理論 | 70 | | | | | |

令和8年度 年間授業計画

東京都立両国高等学校

| | | | | |
|-------|---------------|-----|-------|------|
| 教科・科目 | 保健体育・体育(男子) | 2単位 | 対象学年 | 高校1年 |
| 教科書 | 大修館 「新高等保健体育」 | | 教科担当者 | |
| 副教材 | なし | | | |

| | | | |
|----|--|---|--|
| 目標 | <p>【A：知識及び技能】</p> <p>実践種目の技能向上、実技種目のタイム向上を目指し、体力の向上を身に付ける。各種目の運動特性を理解し、知識を身に付ける。</p> | <p>【B：思考力、判断力、表現力等】</p> <p>自己の能力に適した運動の課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫させる。</p> | <p>【C：学びに向かう力、人間性等】</p> <p>自ら進んで運動を実施し、運動の楽しさや喜びを体得させる。生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる。</p> |
|----|--|---|--|

| 学期 | 単元 | 時間 | 指導内容・留意点等 | 評価基準 | | | 評価方法 |
|-----|---|----|---|------|---|---|---|
| | | | | A | B | C | |
| 一学期 | A バレーボール | 26 | ◎バレーボール ・パス、レシーブ、スパイク、ブロック ・簡易ゲーム ◎陸上競技、体づくり運動 ・短距離走 ・投てき種目 ・体力向上のための運動 ◎水泳 ・クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ ◎社会の変化とスポーツ ・現代社会におけるスポーツの意義や必要性 | ○ | ○ | ○ | 実技到達度テスト タイム測定 課題レポート 実技種目への振り返り 実技種目への自主的な取り組み 課題解決への態度 出席状況など |
| | B 陸上競技 体づくり運動 (新体力テスト) 水泳 水泳 体育理論 | | | | | | |
| 二学期 | A 水泳 | 30 | ◎水泳 ・クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ ◎バスケットボール ・パス、キャッチ ・セットショット ・ドリブルシュート ・対人防御 ・簡易ゲーム ◎ソフトボール ・キャッチボール ・バッティング ・バッティング ・守備練習 ・連係プレー ・ゲーム ◎社会の変化とスポーツ ・意義、技術・戦術及び規則の理解 ・状況に応じたスポーツとの関わり方 | ○ | ○ | ○ | 実技到達度テスト 課題レポート 実技種目の振り返り 実技種目への自主的な取り組み 問題解決への態度 出席状況など |
| | B 水泳 バスケットボール ソフトボール 体育理論 | | | | | | |
| 三学期 | A 長距離走 | 14 | ◎長距離走 ・タイム走 ・距離走 ◎球技選択 ・提示した球技（バレーボール、サッカー等の中から選択） ◎社会の変化とスポーツ ・豊かなスポーツライフの設計と実践 | ○ | ○ | ○ | タイム測定 実技到達度テスト 課題レポート 実技種目の振り返り 実技種目への自主的な取り組み 問題解決への態度 出席状況など |
| | 球技選択 | 合計 | | | | | |
| | 体育理論 | 70 | | | | | |

令和8年度 年間授業計画

東京都立両国高等学校

| | | | | |
|-------|---------|-----|-------|------|
| 教科・科目 | 保健体育・保健 | 1単位 | 対象学年 | 高校1年 |
| 教科書 | 新高等保健体育 | | 教科担当者 | |
| 副教材 | なし | | | |

| | | | |
|----|--|---|--|
| 目標 | 【A：知識及び技能】 学習の過程を通じた知識の習得状況について評価するとともに、それらを既有的知識と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できるように概念等を理解しているかを評価する。 | 【B：思考力、判断力、表現力等】 保健の知識を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかを評価する。 | 【C：学びに向かう力、人間性等】 自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意志的な側面を評価する。 |
|----|--|---|--|

| 学期 | 単元 | 時間 | 指導内容・留意点等 | 評価基準 | | | 評価方法 |
|-----|--|----|--|------|---|---|-----------------------------|
| | | | | A | B | C | |
| 一学期 | 1単元 現代社会と健康 | 13 | (1) 国民の健康水準と健康の意義を理解させる。 | ○ | ○ | | 課題レポート、グループ発表 |
| | 1日本における健康課題変遷 2健康の考え方と成り立ち 3ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり 4健康に関する意志決定・行動選択 5現代における感染症問題 6感染症の予防 7性感染症・エイズ予防 | | (2) さまざまなライフスタイルが健康に及ぼす影響を知り、食事・運動・休養・睡眠・喫煙・飲酒・薬物及び医薬品等の正しい使い方を理解する。 | | | | |
| 二学期 | 8生活習慣病の予防と回復 9身体活動・運動と健康 10食事と健康 11休養・睡眠と健康 12がんの予防と回復 13喫煙と健康 14飲酒と健康 15薬物乱用と健康 16精神疾患の特徴 17精神疾患への対応 | 15 | (3) 新たな感染症問題の防止のために、自分でやれること、社会がすべきことを理解する。 (4) エイズの実態を知り、エイズや性感染症の予防のためにすべきことを理解する。 (5) 大脳の機能を知り、心の健康について理解を深め自己実現することの意義を理解する。 | ○ | ○ | ○ | 課題レポート、グループ発表 定期考査、ノート提出 |
| 三学期 | 18事故の現状と発生要因 19交通事故防止の取り組み 20安全な社会形成 21応急手当の意義と救急医療体制 22心肺蘇生法 23日常的な応急手当 | 7 | (6) 二輪車や自動車の特性等を理解し、安全な社会を構築する大切さを知る。 | ○ | ○ | ○ | |
| | 合計 | | (7) 救急法の意義とその具体的な方法についてダミーを使用して身につける。 | | | | |
| | 35 | | | | | | |

令和8年度 年間授業計画

東京都立両国高等学校

| | | | | |
|-------|-----------------|-----|-------|------|
| 教科・科目 | 芸術・音楽 I | 2単位 | 対象学年 | 高校1年 |
| 教科書 | MOUSA 1 (教育芸術社) | | 教科担当者 | |
| 副教材 | なし | | | |

| | | | |
|----|--|---|---|
| 目標 | 【A：知識及び技能】 | 【B：思考力、判断力、表現力等】 | 【C：学びに向かう力、人間性等】 |
| | 曲想と音楽の構造や音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 | 音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫できるようにする。 | 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養 |

| 学期 | 単元 | 時間 | 指導内容・留意点等 | 評価基準 | | | 評価方法 |
|-----|-----------|----|--|------|---|---|---|
| | | | | A | B | C | |
| 一学期 | 歌唱 | 26 | 発声や言葉の発音等の基礎的な内容を理解し、効果的に表現するための技能を身に付けることができる。 | ○ | ○ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・出席状況 ・授業での取り組み ・実技発表・実技テスト ・筆記テスト ・提出物 |
| | ギターアンサンブル | | ギターの基礎的奏法を身に付けることができる。和音進行、各パートの役割を理解し、素敵なアンサンブルを創りあげることができる。 | ○ | ○ | ○ | |
| | 楽典 | | 音部記号、音符・休符、音名・階名、拍子、音階等の基礎的な内容を理解し、楽譜を読むことができる。 | ○ | | ○ | |
| | 鑑賞 | | オペラ、ミュージカル等の国内外の優れた音楽に触れ、諸外国及び日本の文化に対する理解を深めることができる。 | ○ | ○ | ○ | |
| 二学期 | 歌唱 | 30 | 曲の構成、各パートの役割を理解し、合唱表現を工夫することができる。歌詞や曲の特徴を踏まえ、曲の雰囲気にあった表現ができる。 | ○ | ○ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・出席状況 ・授業での取り組み ・実技発表・実技テスト ・筆記テスト ・提出物 |
| | ギターアンサンブル | | ギターの基礎的奏法を身に付けることができる。和音進行、各パートの役割を理解し、素敵なアンサンブルを創りあげることができる。 | ○ | ○ | ○ | |
| | 楽典 | | 和音進行等の基礎的な内容を理解することができる。 | ○ | ○ | ○ | |
| | 鑑賞 | | 日本の伝統音楽に触れ、日本の文化に対する理解を深めることができる。 | ○ | | ○ | |
| 三学期 | 歌唱 | 14 | より豊かな合唱表現を目指して、意欲的に取り組むことができる。 | ○ | ○ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・出席状況 ・授業での取り組み ・実技発表・実技テスト ・提出物 |
| | クラスコンサート | 合計 | 練習計画をたて、友人と協力しながら、素敵なアンサンブルを創りあげることができる。より豊かな表現を目指して、積極的に取り組むことができる。 | ○ | ○ | ○ | |
| | | 70 | | | | | |

令和8年度 年間授業計画

東京都立両国高等学校

| | | | | |
|-------|---------|-----|-------|------|
| 教科・科目 | 芸術・美術 I | 2単位 | 対象学年 | 高校1年 |
| 教科書 | 美術 1 | | 教科担当者 | |
| 副教材 | なし | | | |

| | | | |
|-----|---|--|--|
| 目 標 | <p>【A：知識及び技能】</p> <p>美術的視点を内外に持つことにより知識の幅を増やす。意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことが出来るようにする。</p> | <p>【B：思考力、判断力、表現力等】</p> <p>創意工夫を積極的に行うことにより、造形的な見方、表現の習得をする。価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じたり深めたりすることが出来るようにする。</p> | <p>【C：学びに向う力、人間性等】</p> <p>主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p> |
|-----|---|--|--|

| 学 期 | 単 元 | 時 間 | 指 導 内 容 ・ 留 意 点 等 | 評 価 基 準 | | | 評 価 方 法 |
|-------|--------------------|-----|---|---------|---|---|-------------------|
| | | | | A | B | C | |
| 一 学 期 | 寄せ絵で自画像 | 18 | 歌川国芳とアルチンボルトの寄せ絵を鑑賞し、そのユーモラスさや時代背景について学ぶ。 自身でテーマを設定し、自分自身の横顔をモチーフにした寄せ絵制作をする。 絵による自己表現を通して、見方や感じ方を深める創造活動に主体的・意欲的に取り組む。 | ○ | ○ | ○ | 作品・ワークシート・授業態度・出欠 |
| | 静物デッサン | 8 | デッサンの基礎となる、輪郭・陰影・空間・形態・質感など様々な見方を身につける。 鉛筆によるデッサン表現の活動を通して見方や感じ方を深める創造活動に主体的・意欲的に取り組む。 | ○ | ○ | ○ | 作品・ワークシート・授業態度・出欠 |
| 二 学 期 | 架空の生物 | 20 | 様々な生物の特徴や構造等を基にオリジナルの生物を構想し、粘土による立体表現の特性を生かして創造的に表す。 架空の生物というテーマから主題を生成し、粘土による立体表現の特性を生かし、形や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練ったり鑑賞したりする。 粘土による立体表現の活動を通して見方や感じ方を深める創造活動に主体的・意欲的に取り組む。 | ○ | ○ | ○ | 作品・ワークシート・授業態度・出欠 |
| | ストップモーションアニメーション | 10 | テーマを基に、ストップモーションアニメーションの特性を生かして創造的に表す。 主題を生成し、ストップモーションアニメーションの特性を生かし、画面構成・撮影方法などについて考え、創造的な表現の構想を練ったり鑑賞したりする。 ストップモーションアニメーションで表現する活動を通して、見方や感じ方を深める創造活動に主体的・意欲的に取り組む。 | ○ | ○ | ○ | 作品・ワークシート・授業態度・出欠 |
| 三 学 期 | ストップモーションアニメーション続き | 14 | テーマを基に、ストップモーションアニメーションの特性を生かして創造的に表す。 主題を生成し、ストップモーションアニメーションの特性を生かし、画面構成・撮影方法などについて考え、創造的な表現の構想を練ったり鑑賞したりする。 | ○ | ○ | ○ | 作品・ワークシート・授業態度・出欠 |
| | | 合計 | 70 | | | | |
| | | 70 | ストップモーションアニメーションで表現する活動を通して、見方や感じ方を深める創造活動に主体的・意欲的に取り組む。 | | | | |

令和8年度 年間授業計画

東京都立両国高等学校

| | | | | |
|-------|--------|-----|-------|------|
| 教科・科目 | 芸術・書道Ⅰ | 2単位 | 対象学年 | 高校1年 |
| 教科書 | 書Ⅰ | | 教科担当者 | |
| 副教材 | なし | | | |

| | | | |
|----|---|--|--|
| 目標 | 【A：知識及び技能】 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 | 【B：思考力、判断力、表現力等】 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。 | 【C：学びに向かう力、人間性等】 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたる書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。 |
| | | | |

| 学期 | 単元 | 時間 | 指導内容・留意点等 | 評価基準 | | | 評価方法 |
|-----|--|----|--|--|---|---|--------|
| | | | | A | B | C | |
| 一学期 | (1) オリエンテーション (2) 書道アートカード (3) 臨書入門（一字書） (4) 楷書古典の臨書 ①孔子廟堂碑 ②九成宮醴泉銘 ③雁塔聖教序 ④顔氏家廟碑 ⑤牛橛造像記 (5) 書道レクリエーション | 26 | (1) 中学書写の内容をふり取りながら高校書道の学習内容に触れ、両者の違いが理解できるよう働きかける。 (2) アートカードを使った鑑賞を通してグループでのコミュニケーションの機会を作り、学習に主体的に取り組んでいく態度や、知識・技能の習得への意欲を喚起するように促す。 (3) 教科書掲載の全ての書の中から自分の興味・関心に合わせて一字を選び、自分なりの臨書を実践するよう働きかける。 (4) 臨書を通して楷書の基本点画を確認するように促す。すべての古典について範書を行い、その特徴を理解して清書するよう働きかける。 | | ○ | ○ | ワークシート |
| | (6) 対話型鑑賞 (7) 行書古典の臨書 ①集王聖教序 ②蘭亭序 ③風信帖 ④争坐位文稿 (8) 臨書作品制作 (9) 漢字仮名交じりの書 (10) 生活の中の書 (11) 古筆の臨書（高野切第三種） ①いろは歌（単体） ②蓬萊切（連綿） ③蓬萊切（まとめ） | | 30 | (6) 際立った特徴をもつ書3点以上の鑑賞を通して気づいたこと、感じたことを言語化し、グループ内で共有するとともに、鑑賞のための様々な観点があることを示す。 (7) 臨書を通して行書の基本用筆を確認するように促す。すべての古典について範書を行い、その特徴を理解して清書するよう働きかける。 (8) 自分の興味・関心に応じた古典を選択し、その特徴を理解して清書するよう働きかける。 (9) 自分の興味・関心に応じた言葉を選択し、漢字と仮名の形、線質、全体の構成を工夫して思いにかなう表現を実践するよう働きかける。 (10) 日常生活の中で自分がよいと感じた書を写真に撮りにPadletに投稿、その書のどのような点によさを感じたか、個人発表を通して述べるよう促す。 (11) 臨書を通して仮名の書の基本用筆を確認するように促す。あわせて、変体仮名への理解を深めるようなワークを実施する。 | ○ | ○ | ○ |
| 三学期 | (12) 自由制作 ①作品概要書の作成 ②制作 ③合評会 | 14 | | (12) これまでの学習内容をふまえ、自分の興味・関心に応じた書に関わる表現を目指すよう働きかける。作品概要書を作成するとともに、見通しを立てて制作に臨むよう促す。 | ○ | ○ | ○ |
| | | 合計 | | | | | |
| | | 70 | | | | | |

令和8年度 年間授業計画

東京都立両国高等学校

| | | | | |
|-------|---|-----|------|------|
| 教科・科目 | 外国語・英語コミュニケーション I | 2単位 | 対象学年 | 高校1年 |
| 教科書 | ELEMENT English Communication I 教科担当者 | | | |
| 副教材 | ・ELEMENT English Communication Iサブノート・速読英単語必修編[Z会] Focus on listening Standard・Listening 2.0・Essentials・Reading Core 3 ・Q: Skills for Success Reading and Writing 2 (Oxford University Press) ・Aim High Vol.1 | | | |

| | | | |
|----|--|---|---|
| 目標 | 【A：知識及び技能】 習得すべき文法知識や語法を正しく理解した上で、それらを場面に応じ適切に用いて、表現活動を行うことができるようになること。 | 【B：思考力、判断力、表現力等】 プレゼンテーションや討論の場面で、身のまわりや世界で起きている話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や自分の考えなどを、聞き手にわかりやすく話し伝えることができるようになること。 | 【C：学びに向う力、人間性等】 学習した内容を基に、事実や自分の考えなどを自立的に話して伝え合おうとしたり、学習した内容について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、他者と議論する場を積極的に構築する態度を養うこと。 |
|----|--|---|---|

| 学期 | 単元 | 時間 | 指導内容・留意点等 | 評価基準 | | | 評価方法 |
|-----|--|----|--|------|---|---------------------|---|
| | | | | A | B | C | |
| 一学期 | [ELEMENT] Lesson 1 Turning Over a New Leaf Lesson 2 Love beyond Species Lesson 3 Contributing to Our Planet [Q:Skills for Success 2] Unit 1～3 | 26 | ①言語活動の取り組み状況の観察（思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） ②パフォーマンステスト [Unit Activityの発表、ライティング、Speaking Review Task]（思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） ③上記課題等の提出（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） ④小テスト、中間・期末考査、評価問題など（知識・技能、思考・判断・表現） | ○ | ○ | ○ | 定期考査、本文学習ノート、グループ発表、Unit Activityの発表 など |
| | ①言語活動の取り組み状況の観察（思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） ②パフォーマンステスト [Unit Activityの発表、ライティング、Speaking Review Task]（思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） ③上記課題等の提出（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） ④小テスト、中間・期末考査、評価問題など（知識・技能、思考・判断・表現） | | ○ | ○ | ○ | 定期考査、グループ発表、個人発表 など | |
| 二学期 | [ELEMENT] Lesson 4 Messages for World Peace Lesson 5 Fashion and Sustainability Lesson 6 Reaching Out to Others Lesson 7 The Wonders of Language [Q:Skills for Success 2] Unit 4～6 | 30 | ①言語活動の取り組み状況の観察（思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） ②パフォーマンステスト [Unit Activityの発表、ライティング、Speaking Review Task]（思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） ③上記課題等の提出（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） ④小テスト、中間・期末考査、評価問題など（知識・技能、思考・判断・表現） | ○ | ○ | ○ | 定期考査、グループ発表、個人発表 など |
| 三学期 | [ELEMENT] Lesson 8 Passing Down Cultural Treasures Lesson 9 Technology and Discoveries Lesson 10 Standin Up for Human Rights [Q:Skills for Success 2] Unit 7～8 | 14 | ①言語活動の取り組み状況の観察（思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） ②パフォーマンステスト [Unit Activityの発表、ライティング、Speaking Review Task]（思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） ③上記課題等の提出（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） ④小テスト、期末考査、評価問題など（知識・技能、思考・判断・表現） | ○ | ○ | ○ | 定期考査、グループ発表、個人発表 など |
| | 合計 | 70 | ①言語活動の取り組み状況の観察（思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） ②パフォーマンステスト [Unit Activityの発表、ライティング、Speaking Review Task]（思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） ③上記課題等の提出（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） ④小テスト、期末考査、評価問題など（知識・技能、思考・判断・表現） | | | | |

令和8年度 年間授業計画

東京都立両国高等学校

| | | | | |
|-------|---|------|------|------|
| 教科・科目 | 外国語・論理表現 I | 2 単位 | 対象学年 | 高校1年 |
| 教科書 | Crown Logic and Expression I | | | |
| 副教材 | ・ Ultimate 総合英語2nd edition ・ Vision Quest Advanced Workbook ・ Vintage英文法 ・ 語法 4thEdition Q: Skills for Success Reading and Writing 2 (Oxford University Press) ・ 英語コア構文99 | | | |

| | | | |
|----|---|---|--|
| 目標 | 【A：知識及び技能】 表現形式と機能を理解した上で、伝達したい事柄について、話しかけたり例を挙げるやり取りの表現の機能に留意しながら、基本的な語彙や文法を活用して、自分の考えを伝え合う技能を身に付ける。 | 【B：思考力、判断力、表現力等】 アイデアの中から適切なものを取捨選択し、それを基本的な語彙や文法を活用して表現して伝えたり、相手からの質問に応答したりできる。またアイデアや情報の中から適切なものを取捨選択し、論理展開に留意し、基本的な語彙や文法を活用して、聞き手を意識しながらスピーチできる。 | 【C：学びに向かう力、人間性等】 主体的に考え、複数のアイデアの中から適切なものを取捨選択し、それを基本的な語彙や文法を活用して主体的に表現して伝えようとしたり、相手からの質問に応答することができる。 |
|----|---|---|--|

| 学期 | 単元 | 時間 | 指導内容・留意点等 | 評価基準 | | | 評価方法 |
|-----|--|----------|---|------|---|---|--|
| | | | | A | B | C | |
| 一学期 | [Crown] Lesson 1 OriHime Lesson 2 Breakfast Makes [Q skills] Unit1 Why is something popular? Unit2 How do colors affect our behavior? | 26 | 習熟度別2クラス展開で行う。 ①言語活動の取り組み状況の観察（思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） ②パフォーマンステスト [TaskやPresenting Your Ideasの発表、ライティング、スピーキングTask]（思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） ③上記課題等の提出（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） ④小テスト、中間・期末考査、評価問題など（知識・技能、思考・判断・表現） | ○ | ○ | ○ | 定期考査、グループ発表、個人発表、TaskやPresenting Your Ideas Unit Activityの発表など |
| | [Ultimate] ・ 文型 ・ 動詞語法 ・ 時制 ・ 動作動詞と状態動詞 ・ 完了形 ・ 時制の一致 ・ 助動詞 | | ①言語活動の取り組み状況の観察（思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） ②言語活動（ペアワークやグループワークを通じての、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） ③課題等の提出（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） ④小テスト、中間・期末考査、評価問題など（知識・技能、思考・判断・表現） ⑤習熟度別クラスで、上級クラスでは難易度の高い問題を提示し、より深い理解と定着を図る。下級クラスでは、理解を深めるためのプリント等を配布し、理解を深めさせる。 | ○ | ○ | ○ | 定期考査、課題提出など |
| 二学期 | [Crown] Lesson 3 Cool Japan Lesson 4 Save Our Planet [Q skills] Unit3 What does it mean to be polite? Unit4 How can technology improve performance? | 30 | ①言語活動の取り組み状況の観察（思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） ②パフォーマンステスト [TaskやPresenting Your Ideasの発表、ライティング、スピーキングTask]（思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） ③上記課題等の提出（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） ④小テスト、中間・期末考査、評価問題など（知識・技能、思考・判断・表現） | ○ | ○ | ○ | 定期考査、グループ発表、個人発表 など |
| | [Ultimate] ・ 受動態 ・ 不定詞 ・ 動名詞 ・ 分詞 ・ 関係詞 | | ①言語活動の取り組み状況の観察（思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） ②言語活動（ペアワークやグループワークを通じての、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） ③課題等の提出（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） ④小テスト、中間・期末考査、評価問題など（知識・技能、思考・判断・表現） ⑤習熟度別クラスで、上級クラスでは難易度の高い問題を提示し、より深い理解と定着を図る。下級クラスでは、理解を深めるためのプリント等を配布し、理解を深めさせる。 | ○ | ○ | ○ | 定期考査、グループ発表、個人発表 など |
| 三学期 | [Crown] Lesson 5 Volunteer Work for What? Lesson 6 Another Life I Might have Had [Q skills] Unit5 What makes a family business successful? Unit6 How can you learn faster and better? | 14 | 習熟度別2クラス展開で行う。 ①言語活動の取り組み状況の観察（思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） ②パフォーマンステスト [TaskやPresenting Your Ideasの発表、ライティング、スピーキングTask]（思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） ③上記課題等の提出（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） ④小テスト、中間・期末考査、評価問題など（知識・技能、思考・判断・表現） | ○ | ○ | ○ | 定期考査、グループ発表、個人発表 など |
| | [Ultimate] ・ 比較 ・ 仮定法 ・ 否定 | 合計 70 | ①言語活動の取り組み状況の観察（思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） ②言語活動（ペアワークやグループワークを通じての、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） ③課題等の提出（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） ④小テスト、中間・期末考査、評価問題など（知識・技能、思考・判断・表現） ⑤習熟度別クラスで、上級クラスでは難易度の高い問題を提示し、より深い理解と定着を図る。下級クラスでは、理解を深めるためのプリント等を配布し、理解を深めさせる。 | ○ | ○ | ○ | 定期考査、グループ発表、個人発表 など |

| | | | | |
|-------|------------------|------|-------|------|
| 教科・科目 | 情報・情報 I | 2 単位 | 対象学年 | 高校1年 |
| 教科書 | 実教出版 高校情報 I 新訂版 | | 教科担当者 | |
| 副教材 | 実教出版 ベストフィット情報 I | | | |

| | | | |
|----|---|---|--|
| 目標 | 【A：知識及び技能】 | 【B：思考力、判断力、表現力等】 | 【C：学びに向かう力、人間性等】 |
| | 社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報技術を活用して問題を発見し解決するための知識・技能を身に付ける。 | 情報を活用して問題を解決するための思考力、必要な情報や解決の方法などを比較し選択するための判断力、相手や状況に応じて情報を伝えるための表現力を身に付ける。 | 情報を多面的・多角的に吟味し見定めていく力、情報モラルや情報に対する責任について考えようとする態度を身に付ける。 |

| 学期 | 単元 | 時間 | 指導内容・留意点等 | 評価基準 | | | 評価方法 |
|-----|--|----|--|------|---|---|--------------------|
| | | | | A | B | C | |
| 一学期 | 第1章 情報社会と問題解決 - 情報とメディア - 情報技術による社会の変化 - 問題の発見と解決 - 知的財産権 - 情報に関する法規 - 情報セキュリティ | 26 | 情報とは何か、その定義と特性を理解させる。ビッグデータや人工知能などの技術によりさまざまな困難を克服しようとしていることを理解する。 不正アクセスや個人情報、著作権など自身を取り巻く法規を理解し適切に取り扱えるようにする。 メディアごとの特性を理解し適切な選択ができるようになる。 効果的なコミュニケーションや問題解決のために情報を整理し受け手にとってわかりやすいデザインの基礎知識と技術を身に付ける。 | ○ | ○ | ○ | 授業 実習課題 定期考査 |
| | 第2章 コミュニケーションと情報デザイン - コミュニケーションとメディア - 情報デザイン - Webサイトの設計 - アナログとデジタル - 情報のデジタル化 - データの圧縮 | | デジタルの特徴を知りその表現、演算方法を知る。 音、画像のデジタル処理を体験しデジタル化のいい点、悪い点を理解する。 | | | | |
| | 第3章 コンピュータの仕組み - ハードウェアとソフトウェア - 2進数の計算 - 論理回路と論理演算 - コンピュータの構成と動作 - コンピュータの性能 | | | | | | |
| 二学期 | 第4章 プログラミングとシミュレーション - アルゴリズムとプログラミング - プログラミングの基本 - 関数 - 探索のアルゴリズム - 整列のアルゴリズム - モデル化とシミュレーション - 確定的モデルのシミュレーション - 確率的モデルのシミュレーション | 30 | 問題を解決するために、「何を」「どのような順番で」「何に対して行うか」というアルゴリズムを記述できるようにする。探索や整列の基礎的なプログラミングを通して論理的思考力を身に付ける。コンピュータ言語で自分が作りたいプログラムを作る技術を身に付ける。シミュレーションとは何かを確認しながら探究させる授業へ、基礎の定着を図る。 ネットワークの仕組みの理解と安全性。そして情報システムの特性を理解し、セキュリティ対策を進め、安全に使う仕組みの理解につなげる。 | ○ | ○ | ○ | 授業 実習課題 定期考査 |
| | 第5章 ネットワークと情報システム - ネットワークとプロトコル - インターネットの仕組み - Webページの閲覧と電子メールの送受信 - ネットワークセキュリティ - 安全のための情報技術 - 情報システム - 情報システムを支えるサービスや技術 - データベース | | | | | | |
| 三学期 | 第6章 データの活用 - データの種類と扱い - データの収集と整理 - データの分析 | 14 | データの収集や整理、補完を行い、実際にシミュレーションを体験する。 | ○ | ○ | ○ | 授業 実習課題 定期考査 |
| | 合計 | 70 | データの分析を行うためにデータの特徴を捉えたり、他と比較するために表計算ソフトを用いたデータ処理を行う。 | | | | |

令和8年度 年間授業計画

東京都立両国高等学校

| | | | | |
|-------|-----------------|-----|-------|------|
| 教科・科目 | 総合・総合的な探究の時間 | 2単位 | 対象学年 | 高校1年 |
| 教科書 | 「人間と社会」東京都教育委員会 | | 教科担当者 | |
| 副教材 | なし | | | |

| | | | |
|--------|--|---|--|
| 目 標 | 【A：知識及び技能】 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。 予測できない社会の変化や新しい課題に対応するため、主体的に自己や社会の課題を発見し、その解決に向けて必要な知識や技能を身につける。 | 【B：思考力、判断力、表現力等】 実社会や実生活と事故との関わりから問いを見だし、自分で課題を立てて、情報を集め、整理・分析して、まとめ、表現をしている。 社会的現実を照らし、よりよい生き方を選択することができるように、自己と社会との関わりから課題を見出し、情報を収集し、それらを整理・分析して、多面的・多角的に考察する力を養う。 | 【C：学びに向かう力、人間性等】 探究活動に主体的・共同的に取り組もうとしているとともに、互いの良さを生かしながら、新たな価値を想像し、よりよい社会を実現しようとしている。 演習や体験活動に主体的に・協働的に取り組むことにより、人間としての在り方・生き方に対する自覚を深め、自己の生き方を充実させようとする態度と、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。 |
|--------|--|---|--|

| 学 期 | 単元 | 時間 | 指導内容・留意点等 | 評価基準 | | | 評価方法 |
|-------------|--|----------------|--|------|---|---|----------------------|
| | | | | A | B | C | |
| 一 学 期 | ガイダンス 探究活動の基礎 第13章 地域社会を築く 第14章 自然と人間の関わり | 26 | ガイダンスや講義を通して現代社会の諸問題について考える。 「自然と上手に関わって生きる」、「地域社会は誰が何のために築くのか」ということについて、校外学習の体験活動と合わせて学習する。 | ○ | ○ | ○ | 課題レポート、 グループ発表 など |
| 二 学 期 | 探究活動 中間発表 第16章 文化の多様性 第17章 グローバル化が進展する社会 | 30 | ゼミごとに分かれて探究活動を行う。 中間発表に際して、情報を整理し、正しく伝える能力を育成する。 「世界に様々な文化があることは、私たちに何をもたらすか」「グローバル化が進展する社会の中で、何を大切にしてい生きていけばよいか」について学習する。 | ○ | ○ | ○ | 課題レポート、 グループ発表 など |
| 三 学 期 | 探究活動 最終発表 第12章 支え合う社会 最終章 人間と社会～これからの生き方～ | 14 合計 70 | ゼミごとに分かれて探究活動を行う。 1年間のまとめを行う。 防災体験活動を通じて「支え合う社会と自分たちの役割」について学び考える。 人間と社会でこれまで学んだことを生かして、どのようにして幸せな世の中にしていくかを考える。 | ○ | ○ | ○ | 課題レポート、 グループ発表 など |